

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	証券取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成18年10月10日
【事業年度】	第35期（自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日）
【会社名】	株式会社スルガコーポレーション
【英訳名】	SURUGA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩田 一雄
【本店の所在の場所】	横浜市神奈川区台町15番地1
【電話番号】	045(314)0361(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部総括 伊藤 佳之
【最寄りの連絡場所】	横浜市神奈川区台町15番地1
【電話番号】	045(314)0361(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部総括 伊藤 佳之
【縦覧に供する場所】	株式会社スルガコーポレーション東京支店 (東京都港区新橋三丁目1番9号 SURUGA新橋3丁目ビル) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成18年6月29日に提出した有価証券報告書（事業年度（第35期）自平成17年4月1日至平成18年3月31日）の記載事項に一部訂正を要する箇所がありましたので、これを訂正するため、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

1 業績等の概要

(2) キャッシュ・フローの分析

3【訂正箇所】

訂正箇所は___線で示してあります。

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(訂正前)

(2) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、不動産事業受入金等約37億円の減少および仕入債務が約7億円減少し、並びに、新規土地取得により不動産事業支出金が約107億円支出増加となったため111億67百万円（前期比111億65百万円増）の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、新規土地取得に関わる貸付金が約17億円増加したことにより16億62百万円（前期比16億62百万円増）の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、約59億円の社債発行および新規土地取得に伴う借入金約133億円の増加により、177億64百万円（前期比177億57百万円増）の収入となりました。

この結果、現金及び現金同等物は49億33百万円増加し、期末残高は124億50百万円となりました。

(訂正後)

(2) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、不動産事業受入金等約37億円の減少および仕入債務が約7億円減少し、並びに、新規土地取得により不動産事業支出金が約107億円支出増加となったため111億67百万円（前期比91億29百万円増）の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、新規土地取得に関わる貸付金が約17億円増加したことにより16億62百万円（前期比19億32百万円増）の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、約59億円の社債発行および新規土地取得に伴う借入金約133億円の増加により、177億64百万円（前期比113億59百万円増）の収入となりました。

この結果、現金及び現金同等物は49億33百万円増加し、期末残高は124億50百万円となりました。